

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2003-297878
起案日	平成18年 8月24日
特許庁審査官	森口 正治 9403 2F00
特許出願人代理人	西 和哉 (外 2名) 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

<理由1>

この出願は、明細書及び図面の記載が下記の点で、特許法第36条第4項及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

明細書【0023】～【0024】には

『D：検出光の光束の直径、

d：吐出ノズル11から吐出される液滴の直径、

L：吐出ヘッド1の移動方向における吐出ノズルどうしの間隔、

H：1つの吐出ノズルが液滴を吐出してから次の液滴を吐出するまで吐出ヘッド1が移動した距離、として、

$$D/2 + d/2 \leq L \quad \dots (1) \quad \text{且つ、}$$

$$H \leq D \quad \dots (2)$$

の条件を満足するように設定すれば、

検出光の光路上には、吐出ノズル11（11A～11C）から吐出された液滴が1つだけ配置されることになるので、吐出ノズルから液滴が正常に吐出されているかどうかを正確に検査することができる』旨の記載がある。

しかしながら、【図5】を参照しても明らかなように、「吐出ヘッド1」と「検出光の光束」の相対位置関係において、「吐出ヘッド1」が【図5】の位置よりも移動方向前後に僅かにずれた位置にある場合においては、検出光の光路上に、吐出ノズル11Aと11B又は吐出ノズル11Bと11Cから吐出された2個の液滴が配置されることになるので、上記条件を満足するように設定したとしても、検出光の光路上には、吐出ノズル11（11A～11C）から吐出された液滴が1つだけ配置されることとは限らない。

そして、「吐出ヘッド1」と「検出光の光束」の相対位置関係において、「吐出ヘッド1」を正確に【図5】の位置になるようにするための手段については、明細書又は図面において何ら記載されていない。

したがって、発明の詳細な説明（明細書）は、当業者がその実施をすることができる程度に明確かつ十分に記載されているものとは認められない。

なお、この出願は、出願内容が著しく不明確であるから、全ての請求項記載の発明については、新規性、進歩性等の特許要件についての審査を十分には行っていない。

<理由2>

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 （引用文献等については引用文献等一覧参照）

請求項1乃至10（引用文献1）

請求項1乃至10記載の発明と引用文献1記載の発明（主に【0013】【0014】【図1】【図2】参照）を対比するに、両者に実質的な相違点は認められない。

1. 特開平11-179934号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した技術分野 G01F1/00-9/02
 - ・先行技術文献
2. 特開平10-286963号公報
 3. 特開2001-113681号公報
 4. 特開2001-113677号公報
 5. 特開2000-351202号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知書について問い合わせがあるとき、または、この出願について面接を希望されるときは、下記へ連絡されたい。

連絡先 特許審査第一部 計測 森口正治
TEL 03-3581-1101 内線3216